

郷土かわらばん

近代千葉教育発祥の地 流山

流山市流山二丁目にある常与寺、そこに一つの石碑が建っています。そこには千葉師範学校発祥の地と刻まれ、印旛官員共立学舎跡と題されています。この碑はいったい何なのでしょうか。

明治に入り幕藩体制が崩壊し、地方行政の再編が行われました。現在の千葉県が成立する前には三つの県が存在した時期がありました。印旛県（千葉・印旛・埴生・葛飾・結城・相馬・猿島・岡田・豊田の下総九郡）と木更津県、新治県です。



当時の千葉県の地図

このうち、印旛県庁は、田中藩本多家の屋敷があった現在の中央図書館・博物館の所在地にあります。た。（田中藩本多家の事については「かわらばん」三号をご覧ください。）

印旛官員共立学舎

いんばかんいんきょうりつがくしゃ

明治五年（一八七二）八月、明治政府は日本最初の近代学校制度を定めた「学制」を発布しました。これを受け同年九月、印旛県は諸学校、私塾、手習師匠を廃止すると指示をしました。それに加え、小学校の教員を育てる為に、印旛県の県官員（県庁職員）がその俸禄の一部を出資する形で流山村の常与寺に千葉県最初の教員育成校「印旛官員共立学舎」を設立しました。第一回の育成講習は同年十二月から六十日間に渡って行われました。生徒募集にあたり、学制発布前に読み書きを教えていた教育経験者を中心にしたものの、わずか六十日の講習期間では不足で、教授上問題をきたすことも多かったようです。

森の図書館
twitter
@N_morin
oto



発行
流山市立
森の図書館
指定管理者
株式会社
すばる

印旛県は官立の学校を建てることについて文部省に伺いを出しています。文部省はこれを是とし、明治六年六月、流山光明院に鴻台小学校を設立しました。官立の同役目の学校ができたことにより「印旛官員共立学舎」の役目は終わることになりました。

流山学校

ところで、「印旛官員共立学舎」には付設された小学校―「流山学校」がありました。学校では「印旛官員共立学舎」の教員が授業を教えていましたが、伝習員（教習生のこと）も実習に来ていたと考えられています。「流山学校」は現在の流山小学校となり、人口の増加に伴って昭和五十年以降、流山北小学校・鱒ヶ崎小学校・南流山小学校ができました。

千葉県の誕生

明治六年六月、印旛県と木更津県が統合し、千葉県になります。県庁は、千葉郡千葉町（現・千葉市中央区）に置かれ、七月に鴻台小学校は千葉町正妙寺に移転、名称を千葉小学校とします。この後、千葉小学校は、千葉師範学校となり、現在の千葉大学教育学部に引き継がれています。



印旛官員共立学舎跡の碑（常与寺）流山市流山2丁目130-1

参考文献

『学校』

流山市立博物館 1997年

『千葉県史 明治編』

千葉県史編纂事務局 1989年

『千葉県教育史 巻2 復刻版』

青史社 1979年

『千葉県の歴史 通史編 近現代1』

千葉県 2002年

『流山市史 通史編2』

流山市教育委員会 2005年

『チェック！流山のむかし』

流山市教育委員会 2016年

『千葉大学教育学部HP』

<https://www.education.chiba-u.jp/>

いずれも、流山市立図書館の所蔵資料です。流山について詳しく調べたいときは、是非ご利用ください。

協力 流山市立中央図書館・博物館・常与寺